

編集後記

『理学療法と作業療法』から分離独立して『理学療法ジャーナル』が誕生して一年を終えた。作業療法を知る機会が減って残念だという意見を耳にするたびに、そのデメリットを乗り越えるほどのメリットのあるものにしないと、編集委員一同試行錯誤の一年だった。内容の方向性はまだ決して満足できるものとは言えないが、理学療法の専門を育む場としての可能性が少しみえてきたようにも感じているが、読者諸氏の御感想、御意見などをぜひお寄せいただきたい。

今月号の特集は「整形外科」である。術前・術後の治療と一体化した理学療法的重要性が、どの論文をみてもよくわかる。手術術式をどこまで理解し、術後の修復機序や手術のねらいとするところと限界とをどこまできめ細かく知って理学療法プログラムを実施できているかが問われている。患者に対してより良い理学療法を提供するためには、外科医のメスの動きのような細心の技術の開発は今後の課題であろうし、今第一になすべきことは、執刀医、主治医との密接な連携であろう。

林氏他の論文、「骨粗鬆症と理学療法」は、自分自身が骨粗鬆症や変形性関節症が気になる年になったせいもあり吸い込まれるように読ませていただいた。骨粗



鬆症の発生機序がわかりやすく解説されており、あらためて日ごろの運動不足を反省したしだいである。

長谷川氏他の論文、「習慣性膝蓋骨脱臼の発生機序と手術治療」は運動学的に詳細に解説され、また、理学療法プログラムもよく検討されておりたいへん興味深く読ませていただいた。

原氏他による、『腕神経叢損傷のリハビリテーション』は、89例の経験による系統的な治療システムが紹介され、非常に参考になる論文である。ただ、期待に反して理学療法士のかかわりにふれられておらず、何となく残念な気もした。

他の論文も読みでのあるものばかりで、気楽に眺めるわけにはいかないが、灯火親しむの候、じっくりと勉強するつもりで読んでいただきたい。

(福屋 靖子)

理学療法ジャーナル

(第23巻 第12号)

1989年12月15日発行(毎月1回15日発行)

1部定価 1,391円(本体1,350円)

(配送料60円)

年ぎめ予約購読料 15,821円
(本体15,360円)
(送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 社内案内(03)817-5600

本誌編集室直通(03)817-5703

(担当:渡邊・細田)

販売部直通(03)817-5659・5660

広告室直通(03)817-5696

ファクシミリ(03)815-7802

振替口座 東京 7-96693 番

印刷所 三報社印刷(株) 電話(03)637-0005

広告申込所 (株)医薬広告 電話(03)814-1971

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 1989, Printed in Japan

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意ください。

●編集顧問●

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長

五 味 重 春
東京都立医療技術短期大学
学長

津 山 直 一
国立身体障害者リハビリテ
ーションセンター総長

横 山 巖
七沢リハビリテーション
病院脳血管センター院長
(五十音順、以下同じ)

●編集委員●

安 藤 徳 彦
神奈川リハビリテーション
病院

上 田 敏
東京大学リハビリテ
ーション部

鶴 見 隆 正
高知医科大学附属病院

奈 良 勲
金沢大学医療技術短期大学部

福 屋 靖 子
筑波大学

松 村 秩
東京都立医療技術短期大学

吉 尾 雅 春
協和会病院

●編集同人●

伊 藤 日出男

今 川 忠 男

宇都宮 初 夫

大喜多 潤

大 田 近 雄

大 峯 三 郎

金 子 誠 喜

菊 地 延 子

木 山 喬 博

工 藤 俊 輔

佐々木 伸 一

高 田 京 子

高 橋 正 明

田 口 順 子

武 富 由 雄

寺 山 久美子

富 岡 詔 子

橋 元 隆

半 田 健 壽

藤 沢 しげ子

前 田 哲 男

牧 田 光 代

松 沢 博

丸 山 仁 司

宮 本 省 三

矢 谷 令 子

山 下 隆 昭

米 田 睦 男